

神奈川県立がんセンター 泌尿器科 レジデント研修評価表 (年次)				
レジデント	期 (氏名)			2022.1 ver. 2
指導医				レジデントは太
研修期間	年	月	日～	年 月 日 枠内を記入
がん専門医研修における泌尿器科医としての下記の研修目標について自己評価をするとともに、指導医による評価も受ける。				
A:修得した B:ほぼ修得した O:目標に達しない				
	自己評価	実施または術者	見学または助手	指導医評価
1. 以下の泌尿器科領域の臓器の病態生理を理解している。				
1) 副腎	A・B・C	/		A・B・C
2) 腎	A・B・C			A・B・C
3) 尿路(腎盂、尿管、膀胱、尿道)	A・B・C			A・B・C
4) 前立腺	A・B・C			A・B・C
5) 精巣	A・B・C			A・B・C
6) その他	A・B・C			A・B・C
2. 以下の泌尿器科的疾患を理解し、適切な治療方針が決められる。				
1) 副腎がん	A・B・C・症例なし	/		A・B・C
2) 腎細胞がん	A・B・C・症例なし			A・B・C
3) 腎盂・尿管がん	A・B・C・症例なし			A・B・C
4) 膀胱がん	A・B・C・症例なし			A・B・C
5) 前立腺がん	A・B・C・症例なし			A・B・C
6) 精巣がん・胚細胞がん	A・B・C・症例なし			A・B・C
7) 陰茎がん	A・B・C・症例なし			A・B・C
8) 後腹膜など・その他のがん	A・B・C・症例なし			A・B・C
9) がん以外の良性泌尿器疾患	A・B・C・症例なし			A・B・C
3. 以下の泌尿器科医として必要な患者管理・処置ができる。				
1) 膀胱鏡・尿管ステント患者管理	A・B・C・症例なし	件	件	A・B・C
2) 腎瘻造設患者管理	A・B・C・症例なし	件	件	A・B・C
3) TUR後患者管理	A・B・C・症例なし	件	件	A・B・C
4) 腹腔鏡、開腹術後患者管理	A・B・C・症例なし	件	件	A・B・C
5) 化学療法患者管理	A・B・C・症例なし	件	件	A・B・C
6) 尿路ストマ患者管理	A・B・C・症例なし	件	件	A・B・C
7) がん性疼痛管理	A・B・C・症例なし	件	件	A・B・C
8) 終末期患者管理(緩和ケア)	A・B・C・症例なし	件	件	A・B・C
9) せん妄状態管理	A・B・C・症例なし	件	件	A・B・C
10) Informed Consent	A・B・C・症例なし	件	件	A・B・C
11) 他科からの併診に対する対応	A・B・C・症例なし	件	件	A・B・C
12) その他	A・B・C・症例なし	件	件	A・B・C
4. 以下の泌尿器科がんの治療手技を修得している。				
1) 副腎がんの手術、化学療法	A・B・C・症例なし	件	件	A・B・C
2) 腎細胞がんの手術、化学療法	A・B・C・症例なし	件	件	A・B・C
3) 腎盂・尿管がんの手術、化学療法	A・B・C・症例なし	件	件	A・B・C
4) 膀胱がんの手術、化学療法	A・B・C・症例なし	件	件	A・B・C
5) 前立腺がんの手術、化学療法	A・B・C・症例なし	件	件	A・B・C
6) 精巣がんの手術、化学療法	A・B・C・症例なし	件	件	A・B・C
7) 陰茎がんの手術、化学療法	A・B・C・症例なし	件	件	A・B・C
8) 尿路性器がんの放射線治療	A・B・C・症例なし	件	件	A・B・C
9) 再発尿路性器がんに対する治療	A・B・C・症例なし	件	件	A・B・C
10) 尿路性器がんの他臓器転移への対処	A・B・C・症例なし	件	件	A・B・C
11) 尿路性器がんの骨転移への対処	A・B・C・症例なし	件	件	A・B・C
12) がん性緊急症への対処	A・B・C・症例なし	件	件	A・B・C
13) 腎後性腎不全への対処	A・B・C・症例なし	件	件	A・B・C
14) その他	A・B・C・症例なし	件	件	A・B・C
5. 基礎研究を行っている	A・B・C			A・B・C
6. 学会活動を行っている。		演者または著者	共同演者 または共著者	
1) 学会発表	A・B・C	件	件	A・B・C
2) 論文発表	A・B・C	件	件	A・B・C
レジデント自由記載欄：(欄不足の場合は裏面へ)				
評価： 年 月 日 判定： 優 ・ 良 ・ 可 ・ 不可				
指導医記載欄：				

提出方法: レジデントは研修期間終了時に自己評価を記入して指導医に提出し、指導医は指導医評価を記入後1ヵ月以内に総務企画課に提出すること。